

# 市町村対抗駅伝における各市町村の取り組み

## ～ふくしま駅伝を事例に～

生涯スポーツ国際比較ゼミナール 1213164 宮川 慎太郎

### 1. 研究動機・研究目的

現在、全国 21 の都道府県で市町村対抗駅伝大会が行われている。これは、県民のスポーツ振興を図ると同時に、県内のスポーツ選手（特に陸上長距離選手）の発掘・育成・強化等を目的として開催され、60 回以上続いている都道府県も存在する。

私の地元である福島県でも、1989 年（平成元年）より毎年 11 月にふくしま駅伝（正式名称：市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会）が開催されている。これまで北京五輪マラソン代表の佐藤敦之選手、箱根駅伝で一躍“山の神”と称された今井正人選手や柏原竜二選手など数多くのトップ選手を輩出し、現在も県内の長距離ランナーの発掘、育成、強化において欠かせない重要な大会として位置づけられている。また、私自身がこの大会をきっかけに陸上長距離競技を始めたように、地元テレビ局やラジオ局による実況中継により、多くの県民が陸上競技へ、また地元出身の選手への関心を持つ機会を得ている。しかし、近年、選手が集まらないなどの理由で大会への参加が難しくなる町村が出てきている。これまで、スポーツイベントにおける経済効果などの研究はなされてきたが、取り組みに関する研究はされてこなかった。そこで、ふくしま駅伝に関わる各市町村の実情を調査し、ふくしま駅伝の成績に影響していると思われる要因を探し出し、今後解決していくべき課題を明らかにし、その対策についても考察し、これからのふくしま駅伝の更なる活性化の一助にしたいとの思いから、本研究に着手した。

本研究は、福島県の市町村対抗駅伝（ふくしま駅伝）における各市町村がどのような取り組みをしているのか調査し、順位や成績に影響を及ぼす要因を考察する。また、今後のふくしま駅伝の継続のために、各市町村が行っていくべき取り組みを提案することを目的とした。

### 2. 研究方法

第 28 回ふくしま駅伝に参加した 47 チームの監督または担当者にアンケートを返信用封筒も同封させ郵送した。回収されたアンケートを第 28 回大会における入賞圏内チーム（入賞群）と入賞圏外チーム（非入賞群）に分類・集計し、それぞれの特徴を示した。

### 3. 主な結果と考察

ふくしま駅伝における各自治体のチーム編成面において、中学生男子の人数を見てみる入賞群の場合は、「6～10 人」の割合が 47%で最も高く、次いで「5 人以下」、「16 人以上」の割合がともに 20%であった。非入賞群も「6～10 人」の割合が 54%と最も高く、次いで「5 人以下」の割合が 36%であった。また、図 12、図 13 より中学女子の人数を見てみると、入賞群の場合は 33%であった「5 人以下」の割合が、非入賞群に

なると 64%となった。今後のチームの将来を担っていく中学生において、その人数が多いほどチーム内の競争意識が高まり、結果としてチームの力の底上げにつながっていくと考えられる。

次にチーム運営面における指導者・スタッフ数を見てみると、非入賞群の場合は「6～10人」の割合が 78%と最も高かったのに対し、入賞群の場合は「6～10人」の割合が 27%であったものの「11～20人」の割合が 47%、「21人以上」の割合が 13%あり、入賞群の方が指導者・スタッフ数が比較的に多いことが分かる。指導者は、日々の練習やレース、試走において選手を評価し、改善点等を指摘してくれる。スタッフもチームの大会へ向けたスケジュールの管理などチーム運営において欠かせない存在である。そのような指導者・スタッフ陣が充実しているということは、1回の練習においても質の高いものになり、チーム力の底上げに影響してくると考えられる。

最後に地域面における地域の人々の大会への関心度を見てみると、入賞群の場合は 80%が「とても高い」または「高い」と回答し、非入賞群の場合は 59%であった。さらに保護者の協力度は入賞群の場合、93%が「とても高い」または「高い」と回答し、非入賞群の場合は 78%であった。これらより、入賞群の方が非入賞群と比較し、地域の人々の関心度も保護者の協力度も割合的に高いことが分かった。チームが大会へ向かうにあたり、地域からの応援は選手たちの励みになり、成績にも大きく影響してくると考えられる。保護者の場合も、最も選手の身近にいる存在として、日々の栄養管理から送迎までその協力は必要不可欠であり、その協力度によって選手のモチベーションの向上やより良いチームづくりに影響を与えてくると考えられる。

#### 4. 結論

今後もふくしま駅伝を継続させ、さらに盛り上げていくためにも、参加自治体はこれまでに以上にチームづくりに力を入れていかなければならない。特に若い世代の選手の確保・育成が最も重要だと考えられる。中学生から大会に参加し、高校・大学・一般と大会へ参加し続ける選手の育成が理想であり、そのためには指導者・スタッフはもちろんのこと、保護者や学校、地域の協力、行政のバックアップがとても重要となってくる。それぞれの自治体が一体となり、自治体全体でチームづくりに関わっていけるような体制を作っていくことが各自自治体に求められている。ふくしま駅伝の更なる発展と大会を通じて日本を代表するようなアスリートを輩出することができるよう、まさに“県を挙げて”大会の活性化を図っていかねばならないと考えられる。

#### 5. 卒業論文の執筆を終えて

卒業論文の執筆にあたり、大変多くの方々にご指導、ご助言、ご協力を賜りました。この場をお借りして感謝を申し上げます。特に、テーマ決めから最後の添削まで熱心に指導していただいた黒須先生、アンケートの回答に協力していただいた各自自治体のふくしま駅伝担当者の皆さまには本当に感謝しています。無事に卒業論文を制作できたことにより、改めて自分が周りの人々に支えられていることが実感できました。この経験をこれからの人生に活かしていきたいと思えます。